# 令和７年度　全国学力・学習状況調査結果の概要

木島平村教育委員会

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。 そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。（文部科学省）

２　検査実施日　４月１７日（木）

３　調査対象　　小学６年生、中学３年生

４　調査内容

（１）教科に対する調査

○小学６年生：国語・算数・理科　　○中学３年生：国語・数学・理科

（２）質問紙調査

○児童生徒に対する質問紙調査　　○学校に対する質問紙調査

５　「教科に関する調査」の結果概要と改善の方向

（１）小学６年生

① 国　語

話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる問題では、高い理解度を示していました。内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意して、時間的な順序や事柄をなどを考えたりしながら、文章の構成を考えることもできていました。

一方、情報と情報との関係付け、図などによる語句と語句との関係の表し方に課題が見られました。また、漢字を文の中で、正しく使うことについても課題が見られました。

これからの学習において、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝え合うことを工夫する指導や学年相当の漢字の習得に関する指導の充実が大切であると考えられます。

「平均正答率：５７％」

② 算　数

図形についての基礎的・基本的な知識・技能は、一定の理解度を示していますが、図形の面積の求め方を式や言葉を用いて記述したり、コンパスを用いて作図したりするなど、それぞれの特徴を理解した上での活用に課題が見られました。

「測定」「データ活用」では、伴って変わる二つの数量関係を式や言葉を用いて求めたり、数量の増減を判断する理由を言葉や数を用いて記述することに課題が見られました。今後は数量の変化の意味や表し方を理解するとともに、場面や目的に応じて比較したりし、説明したりするなど学びが必要であると考えられます。　「平均正答率：４６％」

③ 理　科

水の温まり方や蒸発、結露など、温度によって水の状態が変化することについて、観察実験・考察など、基礎的・基本的な知識と技能は一定の理解度を示しています。学習した内容と関係付けて知識を概念的に理解することについても高い数値を示しています。

「地球」「生命」を柱とする領域では、土壌に水がのしみ込む観察で、事象の差異点や気付きを見出したり、実験の条件を制御して解決の方法を試したりするなど、新たな条件下での学びを表現することに課題が残りました。今後の取組として、観察・思考・判断・表現のサイクルを学び手である児童が意識できる学習が、一層求められると考えます。

「平均正答率：50％」

（２）中学３年生

① 国　語

物語文の成文の順序や照応についての理解、文脈に即して漢字を正しく書くことなどに高い理解度を示していました。また、語句の用法、叙述の仕方などを確かめ、文章を整えることや資料や機器を用いて、自分の考えをわかりやすく伝えるように表現を工夫することに関して優れています。

一方で、目的に応じて必要な情報に着目したり、伝えたいことを明確にして表現することに課題が見られました。内容を解釈する際に、自身の考えたことを説明したり、他者の意見を傾聴したりして、自身の考えをまとめる指導が有効であると考えられます。

「平均正答率：５７％」

② 数　学

関数領域では、変化の割合を基に数値の関係を求めることについては、理解を示しています。図形領域では、多角形の外角の意味や四角形の証明、新たな辺や角との関係を求めることについて優れていましたが、条件を変えた場合の証明など、発展的な内容について思考することに課題が見られました。また、データの活用では、相対度数の意味や分布の傾向を比較して読み取り、判断の根拠を数学的な表現を用いて説明することはできていました。

今後は複数のデータ分布を比較するなどの活動を通して、判断の根拠を数学的な表現を用いて説明できるようにすることが必要と考えられます。「平均正答率：４７％」

③ 理　科

IRTバンド分布は、４及び５に該当する生徒の割合が全国よりも多く、各設問の平均正答率では、「エネルギー領域」「粒子領域」において、全国平均を上回っています。また、「生命領域」「地球領域」についても全国比に近い数値が見られました。

一方、情報をもとに科学的に探究する課題では、既習の知識や技能を活用する設問では課題が見られました。生徒質問紙では、「理科の勉強は好き」「理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できている」と回答した生徒の割合が多く、理科で学習した考え方を普段の生活の中で活用していることがうかがわれます。「IRTスコア　５１６」

６　「児童生徒の質問紙調査」の結果概要

将来の夢や目標の有無、自己肯定感に対して、本村の子どもたちは肯定的に自身を捉えています。友達と意見を交わしながら様々な考えに触れ、学びを深める活動が行われています。一方で、ＩＣＴ機器も活用しながら課題解決を行うことについて課題が見られました。

◇小中学校共通（自己肯定感等にかかわる設問）回答割合

| | |
|---|---|
| ・将来の夢や目標を持っている。 | 【小…73.9　中…86.7】 |
| ・自分にはよいところがあると思う。 | 【小…91.3　中…93.3】 |
| ・人の役に立つ人間になりたいと思いますか。 | 【小…100　中…100】 |
| ・人が困っているときは、進んで助ける。 | 【小…91.3　中…96.6】 |
| ・いじめは、どんな理由があってもいけない。 | 【小…100　中…100】 |
| ・分からないことや詳しく知りたいことがあったとき、自分で考え、工夫することができている。 | 【小…65.2　中…83.3】 |
| ・学級の友だちとの間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができていますか。 | 【小…56.5　中…93.3】 |
| ・困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつも相談できる。 | 【小…60.8　中…73.3】 |

◇小中学校共通（ＩＣＴ等にかかわる設問）

| |
|---|
| ・これまで受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、週3回以上使用している。【小…43.4　中…53.3】 |
| ・あなたはＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器で文章を作成することができますか。【小…65.2　中…93.3】 |
| ・自分がＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使って学校のプレゼンテーション（発表スライド）を作成することができると思いますか。【小…26.1　中…83.3】 |

◇小中学校共通（その他の設問）

| |
|---|
| ・土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上勉強をしていますか。【小…13.0　中…33.6】 |
| ・地域や社会をよくするために、何かしてみたいと思う。【小…78.3　中…93.3】 |
| ・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。【小…56.5　中…80.0】 |

◇小学校

| |
|---|
| ・あなたはインターネットを使って情報を収集することができますか。【小…60.8】 |
| ・これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察することがありましたか。【小…86.9】 |
| ・授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互い協力しながら課題に取り組んでいますか。【小…82.6】 |

◇中学校

| |
|---|
| ・学校生活をよりよくするために学級活動で話合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。【中…80.0】 |
| ・学級活動における学級での話合いを生かし、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。【中…83.4】 |
| ・道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか。【中…86.7】 |

７　今後の取組

調査結果については、平均正答率や各設問の正誤だけに着目するのではなく、一人ひとりの児童生徒が、各設問の解答状況に着目し、どこでつまずいているのか、個々への支援を含め学習指導の改善・充実を図ることが求められます。

課題として挙げられた内容については、調査対象の学年のみならず、学年・学校が一体となって、すべての学級において指導の改善・充実に生かしていくことが求められます。

また、児童生徒の学習状況から見えてくる情報をもとに、生活習慣の改善やＩＣＴ機器の活用等、家庭とともに改善を図る必要がある内容については、学校と家庭とが連携を密にしその改善・充実に努めていきたい。